

JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ _____ 捧げます。(_____ 月 _____ 年まで)
- 今回 \$ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子

パンデミックが始まって以来、家に留まることのゆえ、一日の大半の時間がどっさりと目の前に差し出されました。有意義な時をと思いつつ何もせぬまま日が過ぎていきます。ふと思いついたのが、聖書を改めて読み返すこと。日々のデイポーシオンとは別枠で、新約から始め使徒行伝まで読み進めました。どういう訳か、今までの通読と違って、使徒の時代の人々の動きが生き生きと浮かびあがってきました。人物たちが直接に語りかけてきます。使徒たちの行いが実録ドキュメンタリーフィルムを見ているように迫ってきます。パウロが異邦人伝道に遣わされる箇所があちこちに散りばめられています。神様のご計画が見えてきます。アジアの東の端っこの小さな島に届いた福音が私の父を通して娘に伝わり、滅びるのではなく朽ちないいのちを頂いた幸運に感動です。使徒行伝が今も脈打ち一本の線を貫き通し、今に伝わっていることを肌で感じるばかりです。



苦しかろうが、 楽しかろうが乏しくない!

詩編23篇を約束(預言)として考える

にのみやサンチャペル牧師・JEMS協力宣教師
木村 基一師

「主はわが羊飼いと歌ってみる」というのが、マウントハーモンでの最終日のテーマでした。実はあまり踏み込めず心残りだったのですが、キャンプの開催そのものがとても大きな大きな奇跡だと思っていたところ、時報で再度分かち合える事になり、またまた感謝しています。羊飼いと羊の関係を学ぶと、私たちのいのちがとても豊かになります。なぜならイエスは、「わたしが来たのは羊に命を得させ、それをゆたかに得させるため」といっているからです。これに関しては、沢山の素晴らしい資料や学びがされていますので、是非ご自身で探してみてください。ここでは、なぜ歌うのか?という事に焦点を合わせてみたいのです。とても大切なことなので、もう一度、ご自分のこころに、なぜ、私たちは歌うのか?と聞いてみてください。さあどうでしょう?!思い浮かばないときはチャンスです。

神様が私たちに願っていることを知る!チャンスです。実に、私たちが歌うのは、そのように造られたからです。この世界がどのように造られたかは、よく議論されます。とても大切なことですね。神が造られたと信じるのと、偶然が限りなく続いて、この世界ができたと信じるかで、私たちの価値観は変わります。しかし、それよりも私たちの存在が、どれほど特別であるかを知るために、なぜ歌うのかという質問は、もっと大切かもしれません。

そうです。私たち人間は歌うために造られたからです。いろいろなことを体験したり、見たり、聴いたり、触れたりすることで、私たちは知っていくわけですが、それは、五感を通して入ってくる、この体に与えられた素晴らしい機能です。しかし、歌うというのは何かそこに合理的な機能があるというより、私たちの内側(内面)から出てくる、不思議なこと(物)です。風は確実に存在していますし、この自然界にとっても必要な現象ですが、それがどこからきてどこへ行くのかを証明することが難しいのに似ています。歌うというのは不思議な行動です。

私たちの心が苦しかろうが、嬉しかろうが、実は歌うことができます。これについては後でもう少し説明しますが、私たちが歌うときに、ある事がわかります。それは、歌う対象が欲しいという願望に気づくということです。歌うという行動には、誰かを思うという事

が、含まれているからです。また、私たちが歌うときに、自分自身の中心に湧き出てくるいずみとか、それが通る、通り道とかにも気づくのです。いつでも歌うことができるといったのには理由があります。うれしい時の方が簡単ではあるような気がします。しかし、うれしかろうが、悲しかろうが、私たちは歌うことができるのです。そこに、とても大切な助けがあることを知っていますか? それは、霊なる方、聖霊です。

聖霊は私たちの祈りを助けてくださる方、であるなら、主はわが羊飼いと歌うことも聖霊によってされると言うことです。誰も聖霊によらなければイエスは主であると告白できないと聖書は教えていますが、聖霊なる方がいるので、私たちはどんな時でも歌えるのです。状況が厳しい時ほど、その事がはっきりとしますが、..話を戻さなければいけません。ここで、言いたいことは、「そう思っているか?そう思って歌っているか?」なのですが、思うということばが鍵です。信仰者には「信じる」という言葉は重要ですが、言葉を変えて考えましょう。知識として知っているのは、「主はわが羊飼いと」という聖書に書かれている文字です。ただ、「そう思うか?」は別です。思うというのは意識している状態です。確かに、信じてもいます。聖霊によってイエスを主と告白したからです。ただ、そう思って生きていない事が多いのです。問題は、いつも私の頭が、情報や知識で満載、満室だからです。何かを、誰かを思うのには、ある種の空白が必要です。私たちは歌を歌う者として、造られ、その通り道をもらっています。朝、神が起こしてくださった時に「おはよう!」と、あるいは、「あなたは私の羊飼いですか?」と聞いてもいいですね! 聖霊に期待して助けていただいて一日を始めるなら、彼は、イエスに対する思いを与えてくれます。そして、思い続けていくなら歌うのです。それは、聖霊の与えて下さる歌です。神は、私を歌う者として造り、私と出会う場所として歌をくださったのです。

ダビデは、「主はわが羊飼いと」と書き、私たちは、「イエスが羊飼いと歌えるのです。さあ、あと少し!イエスを歌って、思ってこの人生を駆け抜けましょう。





マウントハーモンの恵み

水嶋 豊子

ジャパニーズ・インターナショナル・バプテスト・チャーチ

主の御名を賛美します！

今年初めて、マウントハーモン修養会の全日程に参加させていただきました。

2019年の夏に26年間住んだカリフォルニア州サンノゼからワシントン州バンクーバーに引っ越し、秋頃から地元の教会の礼拝に何度か出席していましたが、新しい土地で知り合いも少ないままパンデミックが始まりました。2人の子供が巣立ち、夫婦2人の生活の中で、世界中に感染者が広がっていくニュースを見ては「明日はどうかかわからない。何も私の生活を保障してくれるものはない」という恐怖心が湧いてきて、不安な思いが広がります。誰にとっても2020年は特別な試練の年だったと思います。今年になって徐々に規制が緩和されてきた頃に、クリスチャンの友達か

ら修養会への参加を誘われ、素直に「参加したい」と返事をしました。何かにつけて消極的で憶病になっている自分を変えたいという気持ちがあったのだと思います。

マウントハーモンの一日は、十字架の山までのウォーキング、朝食、賛美、午前のメッセージ、スモールグループ、昼食、自由時間、夕食、夜のメッセージと充実していて、眠っていた信仰と体にスイッチが入っていくような気持ちでした。いろいろな方々と出会い、一緒に祈り、マスク無しで思いっきり賛美できる素晴らしい毎日でした。

スタッフの方々や賛美チーム、奏楽者が私たち参加者を神様の臨在の中に招き入れてくださいました。朝のメッセージを担当された木村基一牧師は、詩篇23篇から、羊はとても世話のかかる動物で羊飼いがいなければ生きていけないことを話されました。「主は本当に私の羊飼い」であるのかを何度も問いかけてくださり、「私たちの羊飼いは、主よ、あなたしかいないです」と心で受取ることができました。また、「この世

の思い煩いは日々襲ってくる。自分の中の敵に心が支配されている状態は、自分では変えることができないが、羊飼いである神様と一緒に変えてくださる。神様が用意してくれた自分に近づくことができれば良い」と話してくれました。

夜のメッセージは日本からのズームで、長沢牧師がゼカリヤ9章9節の口バの特性を通して、「イエス様が私と同じ目線で悲しみや喜びを共にしてくださること、私のすべてを知っていて放っておくことができない方」であることを話してくださいました。「イエス様は誰よりも強い方で、私の重荷を背負うために来てくれたのに、それを忘れて自分で荷物を運ぼうとしている」という言葉はとても心に残りました。YouTubeで賛美されている姿しか知らなかった長沢牧師ですが、ご自分の家族やお友達のことを本当に嬉しそうに話される様子を見て、神様からの喜びに溢れていることを感じました。

「神様が用意してくれた自分とはどんな自分なのか、自分も神様のために何かできることがあるのでは」という思いが湧いてきて、今回のリトリートは私にとって特別なものとなりました。最終日に記念にとブックストアで「Choose Joy」と書かれた小さなボードを買いました。日々いろいろな試練が襲ってきますが、神様から離れず、頂ける喜びに目を向けることができるようになりたいと思います。

「心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りにたよるな。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。(箴言3:5,6b)



羊飼いの声に 聞き従う羊として

大里 エミ

ガーデナ・バレー・バプテスト教会牧師夫人



主の恵みにより2年ぶりに開催されたマウントハーモン修養会に参加することができ、感謝します。まだまだコロナ禍が続く中、「望みを抱いて喜び、苦難に耐え、ひたすら祈りなさい」(ローマ人への手紙12章12節)は私達一人一人にとって神様から示されている重要なテーマでした。そのテーマに沿って夜の講師、長沢崇史先生は時差がある中、北海道からZoomで、主によって導かれ、ご自分に与えられた持ち味を生かして御言葉を取り次いでくださり、沢山の祝福と恵みを受けました。来年は実際にマウントハーモンに来てくださるよう祈って期待します。

朝の講師の木村基一先生はコロナ禍で渡航が困難な中、日本から来られ、多くのクリスチャンにとって馴染みのある、詩篇23篇を5日間に5つのテーマに従って、時間をかけて深く掘り下げてくださいました。「主は私の羊飼いと試してみる」では、主は私の羊飼いで私達を養ってくださるお方なら、まず朝一番に「おはよう」と挨拶することから始めようという勧めでした。「主は私の羊飼いと試してみる」では、羊は弱く目が悪いけれど、聞く耳を与えられているので、主人の声を聞き分け、一度決めたら従い続ける習性を持つ。イエス様を羊飼いとすると私達も何かの状況で、先が見えなくても、主の声を聞いて従うことの大切さを再確認

しました。「主は私の羊飼いかと疑ってみる」では、ただうのみにするのではなく、イエス様が私の羊飼いであることを、聖書の中に答えを見出すことの大切さを学びました。エレミヤ書29章11-12節は主が私達をご計画をもって造り、導いてくれる真の羊飼いであると示す御言葉としてとても励まされました。「羊飼いの声を聞いてみる」では、「私にはできません、あなたによってのみできます」と認めて主に委ねることの大切さを学びました。神様は上から目線ではなく、私達と一緒にやりたいと願っているということが印象的でした。最後の「そして、歌ってみる」では、ワークショップの「賛美をつくらう」の発表、証しなども織り交ぜた総まとめの時間でした。

今回はゆったりとしたスケジュールの中で、一方的に聖書の解き明かしを聞くのではなく、私達一人一人に主が何を語りかけてくださっているのかを霊的な耳と目で受けて、消化していくための導きとなりました。

その中で特に私に示されたのは神様からの自分への約束が一つ必ずあるから、それを見つけて、握りしめ、口に出して試してみるということでした。今までも神様からの御言葉を握りしめて祈るというのは実行したことはあり、好きな聖句もいくつかありましたが、自分に与えられた生涯を通しての約束の聖句がある事は考えていなかったので、

それが何なのかを見つけ出すよう導かれました。以前からよく示される聖句の中にIIテモテへの手紙1章7節、「神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です」があります。

今回もまたその箇所が示されたので、続きの14節までを深く読んでみました。そしてここで書かれているのは自分の個人的な恐れや臆病心以上に、主を証しすることを恥じ、臆病になってはいけないこと(8節)、私が救われたことも神様のご計画と恵み(9節)によるものであり、この福音のために宣教者、使徒、または教師とされているので(11節)キリストにある信仰と愛のうちに、私(パウロ)から聞いた健全な言葉(聖書)を手本にし(13節)、自分に委ねられた良い物を私達の内に宿る聖霊によって守る(14節)という事に気付かされました。私が福音のためにするべき具体的な役目や私に委ねられた良いものが何なのか、まだまだ模索中ですが、羊飼いに従う羊として、いつも緑の牧場で待っていてくださる主と時を過ごし、その声を聞いて、探し求めて行きたいと思えます。



日語部マウントハーモン修養会報告

JEMS日語部コーディネーター 藤本 三奈子

第72回JEMSマウントハーモン修養会が6月30日(日)から7月3日(土)までMount Hermon Conference Centerで持たれました。準備を始めた3月には、6月末に安全にIn-Person(対面)で修養会を持つことができるのか疑問もありましたが、感染防止を優先にした準備が進められました。幸いにも、修養会前の6月15日にカリフォルニア州に経済再開宣言が出され、ワクチン接種完了者のソーシャルディスタンスや屋内外でのマスク着用などの数々の規定が外された中で開催することができました。難しい状況下に注意を払いつつ、共に賛美し、祈り合い、恵みを分かち合いました。朝の集会では、日本から来て下さった木村基一牧師が詩篇23篇からメッセージを取り次いで下さり、夜の集会では、カナン・プレイズ・チャーチ主任牧師の長沢崇史牧師が今年の修養会テーマ「望みを抱いて喜び、苦難に耐え、ひたすら祈りなさい。」(ローマ12:12)から、ZOOMを通してメッセージを語って下さいました。日語部は、部

分参加者を含めて23名という例年より少ない人数でしたが、参加者の皆さんが神様の臨在に触れられた修養会となったことを感謝しています。来年、2022年のマウントハーモン修養会は、日語部の講師に長沢崇史師を日本からお招きし、6月26日(日)から7月2日(土)までを予定しています。申込みは1月中旬から始まります。比較的早い時期に各部屋がいっぱいになることが予想されますので、早めのお申込みをお勧めいたします。皆さまの上に主の霊が注がれますことをお祈りいたします。

